

計画事業番号	00621	事務事業名	街路樹補植事業	担当部署	建設部土木事務所	電話	760
--------	-------	-------	---------	------	----------	----	-----

【基本情報】

事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		根拠法令等	道路法第16条、同法第42条			
事務事業開始年度	平成18年度		個別計画等				
〃 終了予定年度							
ソフト・ハード区分	ハード事業	会計区分	一般会計	補助単独区分	単独	新規継続区分	継続

【事業概要】

1 総合計画体系	(第 5 章) 快適な生活環境のまち	
	(第 3 節) 道路の整備	
	(施策 1) 市内幹線道路・生活道路等の整備	
2 対象		
3 目的と内容	都市景観の保持と交通の安全性の確保のため、枯れや倒木によって除去された空き植樹樹約430箇所に、補植を実施する。	
4 実施内容 (手段)	27年度まで	平成18年度～21年度:サトウカエデ38本(緑陽通線)、ハシドイ31本(稲穂通線)、イチヨウ1本(新栄37番通線) 平成22年度:サトウカエデ22本(緑陽通線)、ハシドイ9本(稲穂通線) 平成23年度:サトウカエデ9本(緑陽通線)、ハシドイ4本(稲穂通線) 平成24年度:サトウカエデ10本(緑陽通線)、ハシドイ4本(稲穂通線) 平成25年度:イタヤカエデ32本(緑陽通線)、ハシドイ12本(稲穂通線) 平成26年度:ナナカマド11本(輪厚中央通線)、ナナカマド12本(西の里中学校通線)、イタヤカエデ13本(緑陽通線) 平成27年度:イタヤカエデ10本(緑陽通線)、イチヨウ5本(新栄37番線)
	28年度	緑陽通線(イタヤカエデ20本) 虹ヶ丘中央通線(ヤマモミジ22本)

【事業の計画・実績】

平成27年度		平成28年度	平成29年度	平成30年度
計画	実績	計画	計画	計画
緑陽通線(イタヤカエデ20本) 新栄37番線(イチヨウ14本)	緑陽通線(イタヤカエデ10本) 新栄37番線(イチヨウ5本)	緑陽通線 虹ヶ丘中央通線	幹線緑道 ライラック通	幹線緑道 西の里白樺通線

【評価結果・評価コメント】

総合判定		平成29年度に向けた具体的な方向性	評価区分
前年度 2次評価	現状継続	現状継続とする。	
1次評価	現状継続	道路環境の向上のため計画的に実施する必要があることから、現状継続とする。	
2次評価	現状継続	現状継続とする。	

【事業費の推移】

(単位:千円)

			平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
決算額、当初予算額又は推進計画額			1,458	2,000	3,100	3,100
事業額	直接事業費	国支出金	0	0	0	0
		道支出金	0	0	0	0
		地方債	0	0	0	0
		その他特財	0	0	0	0
		一般財源	1,458	2,000	3,100	3,100
		① 合計	1,458	2,000	3,100	3,100
	人件費	② 人数(年間)	0.10	0.10	0.10	0.10
		③ 1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
		④ =②×③	900	900	900	900
		総事業費①+④	2,358	2,900	4,000	4,000

【評価指標】

指標名		単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
活動指標	① 植栽本数 (植栽目標690本)	目標値	22	42	29	45
		実績値	15			
	② 植栽済本数(累計)	目標値	238	273	302	347
		実績値	231			
③	目標値					
	実績値					
成果指標	① 植栽率 【補植本数÷目標本数】	目標値	34.49%	39.57%	43.77%	50.29%
		実績値	33.48%			
	② 【指標の定義(算式等)】	目標値				
		実績値				
③ 【指標の定義(算式等)】	目標値					
	実績値					

【評価項目】

チェック項目	評点	コメント
妥当性 ・税金を使って行うこと(補助すること)が妥当ですか？ ・上位の施策への貢献度は大きいですか？ ・特定の団体の利益に偏っていませんか？ 【評点欄】3妥当、2どちらかという妥当、1妥当でない 【コメント欄】理由を記入	3	街路樹の復元は地元からの要望もあり、都市景観保持の観点からも事業実施は妥当と考える。
達成度 ・計画どおりに成果があがっていますか？ 【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない 【コメント欄】理由を記入	2	計画より成果は下回っているため、更なる進捗率の向上が必要である。
成果向上 ・成果が現状よりも向上する可能性がありますか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入	2	予算の増額により、早い目標達成が必要である。
経済性 ・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入	3	路線別に樹種が決まっており、同じ路線で樹種が異なると、景観が損なわれる。また、専門知識も必要なことから、造園業者へ委託しており、人件費等の増額によりコスト削減の余地はない。

【法律で実施が義務付けられている事務事業か】	<input type="checkbox"/> 法律の義務付けあり	<input checked="" type="checkbox"/> 法律の義務付けなし
------------------------	------------------------------------	---

【民間活力の活用性評価】 (事業担当部局が評価)	<input type="checkbox"/> 民間等での実施または市民等との協働が可能である。	<input checked="" type="checkbox"/> 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。
-----------------------------	---	---